

令和6年度第2回保健所運営協議会 議事録

令和7年2月6日(木)

開会

【事務局・土元課長】

定刻になりましたので、ただ今より、令和6年度第2回川崎市保健所運営協議会を開催させていただきます。

私は、司会進行を務めさせていただきます健康福祉局保健医療政策部保健医療政策担当の土元と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会議の公開についてでございますが、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例第3条の規定により、審議会等の会議は公開することが原則になっており、

本日の会議記録につきましても、発言者の氏名を記載した上で公開とさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本協議会の傍聴は会場でのみ可能となっておりますので、適切な情報管理の観点等から、協議会の開始後は原則として委員の方お一人で御参加くださいますよう、お願いいたします。

次に、本日の会議成立についてです。本日は、委員9名中3名が会場参加、3名がWEB参加、合計6名の出席の予定をいただいております。本協議会が有効に成立していることを報告いたします。

なお、内海委員(病院協会)、田村委員(獣医師会)、小柴委員(食品衛生協会)につきましては、御欠席の旨、連絡をいただいております。

次に、本日の会議開催にあたりまして、保健所長の田崎から御挨拶申し上げます。

【田崎所長】

委員の皆様にはより良い川崎市の保健所運営のために、さまざまな場面でご支援・ご協力を賜りまして、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

本日は保健所運営協議会に御出席いただき、ありがとうございます。最強寒波の到来により、寒さが一段と厳しい折、夜分の開催で、誠に申し訳ございません。

3年ぶりに対面で開催ができました昨年度に続きまして、今年度も皆様と対面とオンラインで共有させていただき貴重な時間を、中身の濃いものにと考えております。

資料にもありますが昨年5月、この新しい庁舎で初めて保健医療調整本部運営訓練を実施いたしました。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

災害発生時に本市の保健・医療・福祉活動を効果的かつ効率的に実施するため、相互調整を行う本部運営をさらに円滑にするためには、目標や情報の共有、役割分担や連携など、関係団体の皆様とのさらなるチームワークの強化が必要であるとの認識をあらたにいたしました。

この協議会では第1回から一貫して災害対策についての協議をいただいております、委員の皆様から忌憚のない意見を頂戴しながら、平時から顔の見える関係を構築し、有事の際には一致団結して事態に即応できる保健所の体制強化に努めてまいりました。

本日は、昨年の「能登半島地震」をはじめ、頻発する各種災害についての「備え」や「対応」を共有させて頂くとともに、本市の取組や体制について、ご報告をさせていただきますので、それぞれの立場から率直なご助言・ご指導をいただければと考えております。

本日は限られた時間ではございますが、どうぞよろしく願いいたします。

委員長の選出

【土元課長】

それでは、「川崎市保健所運営協議会条例 第4条」において、「協議会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員のうちから互選する」となっておりますが、事務局からご提案させていただきますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、事務局から、引き続き、委員長に川崎市医師会の岡野敏明委員を、副委員長に川崎市歯科医師会の松山知明委員をご提案いたしますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、岡野委員、よろしく願いいたします。

それでは、川崎市保健所運営協議会条例第4条の規定に基づき、岡野委員長に議長をお務めいただき、これ以降の会議の進行につきまして、よろしく願いいたします。

議題(1)令和6年度第1回川崎市保健所運営協議会の振り返りについて

【岡野委員長】

前回に引き続き委員長を務めさせていただきます、川崎市医師会の岡野と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の次第に従いまして、議題を進めてまいります。

まず、議題1「令和6年度第1回川崎市保健所運営協議会の振り返りについて」でございます。

本件は、昨年10月に書面にて開催しました第1回協議会についての結果報告になります。

事務局から説明をお願いします。

【土元課長】

それでは、お手元の「資料1」をご覧ください。11月に書面開催にて実施させていただきました、「令和6年度第1回保健所運営協議会」において、委員の皆様からいただいたご意見とそれに対する本市の考えをまとめたものでございます。

(土元課長から資料1の説明)

【岡野委員長】

ありがとうございました。

それでは、先ほど事務局からの説明について、御意見・御質問はありますでしょうか。

【岡野委員長】

それでは私から、松山委員からの御意見で、平時の役職にとらわれない役割分担について御意見ありましたが、医師会においても、継続した対応を可能とするために、災害担当をなるべく固定しております。

各組織でやり方はいろいろあると思いますが有事の際に役職にとらわれないことは重要だと思います。

また、災害時のトイレについて、市や各組織において備蓄などは進んでいるところと思いますが、先ほどの説明によりますと、通常の廃棄方法が可能ということですが、大量のし尿のような水分を多く含んだ廃棄物でも、通常通りの焼却炉による廃棄は大丈夫なのでしょうか。

【土元課長】

危機管理本部、環境局からは、通常どおりの廃棄が可能と伺っておりますが、実際にはまだ運用したことがないため不明な部分もあると思われまます。

【岡野委員長】

ありがとうございます。

他に御質問がなければ、議事を先に進めます。

それでは、先程事務局から説明のありました、金谷委員からの「スマートウォッチを利用した健康管理」について、金谷委員から、ご説明をお願いいたします。

【金谷委員】

ご提示している資料は、私が総務省で事業を行っていた際の資料になります。

これは大都市圏において、大量の避難者の健康管理に対応しきれなくなるため、センサーを用いた管理ができないか研究しておりました時の資料です。

全体のイメージ図であります。在宅避難者など、現在も使用されているスマートウォッチから体温・脈拍・呼吸などのデータがリアルタイムでスマートウォッチから収集することができます。

問題は、災害時の通信が遮断されている状況でもデータが送れるか、ということですが、現在も利用されている5Gの回線であれば、災害時でも適切なデータだけを吸い出し、コンパクト化することで、通信に負荷をかけない形で病院や行政にデータを共有することができるようになります。

最後のスライドは文部科学省からの事業で、持病で失神を起こす可能性が高い方は、その前兆として脈拍が大きく上昇しますが、スマートウォッチから脈拍のデータを収集することで、その前兆をキャッチしてスマートウォッチにアナウンスする、という研究です。

これらを利用することで、避難所の高齢者・高血圧の方の状況を遠隔から管理することができ、災害時、保健指導に携わる職員の負担を下げるのではないかと思います。

これらは既に実現可能な技術で、商業ベースですでに運用もされているものもあります。災害時にも利用することを考慮して、あらかじめ今から準備した方がいいのではないかとのご提案です。

【岡野委員長】

前兆をキャッチし、通知してから失神するまではどのくらいのラグがありますか。

【金谷委員】

通知は失神する約2分～3分前に通知できます。

【岡野委員長】

通知は、本人だけで認識するのではなく、「周囲の人に知らせる」ことが必要になってくるということでしょうか。

【金谷委員】

その通りです。時計に表示できるようにすることで、周囲に知らせることができるようにする等の方法を考えています。

【岡野委員長】

災害時や避難所等においては、通常とは違ったストレスがかかると思うが、統計的はどれくらいの精度で「前兆」を察知できるでしょうか。

【金谷委員】

自律神経の障害は割と前兆をとらえることができるので、半数くらいはキャッチできるものと思われます。

【岡野委員長】

高齢者への普及というのは課題になると思いますが、時計の充電はどの程度もつものでしょうか。

【金谷委員】

1週間に1回ほど充電が必要です。自分でも使っていますが、わりと早くなくなってしまいます。

【岡野委員長】

ありがとうございました。

それでは、今の金谷委員からの説明も含めまして、議題1について、委員の皆様から、ご意見・ご質問などはございますか。

無いようであれば、議事を進めます。

議題(2)災害への備えについて

続きまして、議題2「災害への備えについて」でございます。

本件も、書面開催の第1回協議会においてアンケートを取らせていただきました、台風・南海トラフ警戒警報発令の際の各団体の動きと、川崎市への要望をお聞きいたしました。

まず事務局から説明を行ったのち、委員の皆様から各団体における活動やご意見などをご発言いただきたいと思えます。

それでは、まず事務局から説明をお願いします。

【土元課長】

それでは、「資料2」をご覧ください。

「資料2」は、「資料1」と同じく「令和6年度第1回保健所運営協議会」において、委員の皆様から頂きましたご意見をまとめたものになります。

内容といたしましては、日向灘を震源とする地震に関連して発表された南海トラフ地震臨時情報と8月に発生した台風について、各団体での対応についてのアンケートになります。

まず、健康福祉局の取り組みについてご説明させていただきます。

(資料2の説明)

【岡野委員長】

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から、この夏の南海トラフ地震臨時情報と台風についてのそれぞれの取り組みについて追加で説明したいという方はいらっしゃいますでしょうか。

【岡野委員長】

それでは、医師会についてですが、医師会では、情報伝達ツール・スピーキャンライデンを使用しております。

これは、プッシュ型で情報を流し、回答を得られるもので、日ごろから使わないと有事の際には使用でき

ずに意味がないので、訓練を兼ねて南海トラフでも通知を発出しました。

感染症流行などで病床が足りていない場合等にも有効と思われるので、積極的に利用していきたいと思っております。

【岡野委員長】

その他御意見等なければ議事を進めさせていただきます。

続きまして、議題3「EMISのシステム改修について」でございます。

災害時、広域災害救急医療情報システム（EMIS）を用いて各病院において、現状を報告していただいているところですが、先日そのEMISのシステム改修についての説明会がありましたので、事務局からご報告いたします。

それでは、事務局から、説明をお願いします。

【小野課長】

それでは、DMAT調整担当・小野から説明させていただきます。

説明会は、システムを実際に動かしながらの説明であったため、資料の提供はありませんでしたので、口頭で説明させていただきます。

EMISとは、本部・病院の情報を集約するシステムですが、いろいろ問題があったため、それらの要望を踏まえた改修が行われるとのことでした。

今回の改修では画面の印象から大きく変わったが、直感的にわかりやすいように改修を行ったようです。左にグローバルメニューという、タテに項目が並んだ欄があり、そこからすべての機能にアクセスできるようになっており、画面が推移しても表示形式が変わらないため、従来のものより見やすくなっています。

また、DMATは活動中はなかなかPCを立ち上げることができず、スマートフォンで閲覧・入力することが多いので、スマートフォンでの入力に最適化したと説明がありました。

また、これまでは訓練時等にアクセスが集中した場合、通信が遅くなる問題もありましたが、その影響も緩和したとのことでした。

また、平時から病院の災害対応能力を知るために基本情報の入力をお願いしていましたが、非常に入力しづらいという御意見をもらっていたので、入力しやすいようにしたとのことでした。

また、これまでDMAT隊員がログインするときは、病院のアカウントを使用していたがDMAT隊員ごとにアカウントが割り当てられるようになりました。

なお、今回の説明会はDMAT隊員向けに実施されたもので、行政等ではどうなるのか、という説明はあまりなかったですが、アカウント情報など変更が必要になるため、その点はまた別途お知らせします。

メインの画面構成についてですが、ログイン後に表示される初期画面を『ダッシュボード』と言いますが、この『ダッシュボード』が、DMAT、行政、病院など利用者の役割に応じて異なる内容を表示するようになっていました。

また、本部について、DMAT調整本部・活動拠点本部や、市町村・都道府県の設置する保健医療調整本部も

本部として登録することができるようになっておりました。

さらに、それらの組織図やクロノロだけでなく、『現状分析と課題の共有』ができる機能が追加されました。

この『現状分析と課題の共有』については、昨年度の DMAT 訓練の頃から運用が進んでおり、能登半島地震においても使用したものを EMIS に実装したとのことでした。

医療機関においては、緊急時入力と詳細入力を行うことはこれまでと変わりはありませんが、若干の変更として、緊急時入力において何かしらの問題があれば『要支援』と表示されていたが、対応可能である場合には、入力に関わらず『支援不用』を選択することができるようになりました。

また、DMAT が各病院に支援に入った際、今後、その医療機関にどういった支援を行っていくかの方針を入力することができるようになり、今、その病院が避難しなければならないか、籠城しなければならないか、病床を拡充し受け入れていくか等の判断を共有することができます。

また、J-SPEED との情報連携により、どの地域・避難所にどういった傷病者が多いかなどの情報を集める機能を EMIS と同じログインで利用できるようになる。これにより診療日報や患者情報を登録することが可能になります。

その他、搬送調整機能というものが新たに追加され、運搬先の調整等を EMIS からコミュニケーションアプリを使用して調整する等ができるようになるようです。

説明としてはありませんでしたが、画面上では D 2 4 H、気象庁の『キキクル』やその他のリンクボタンが見えていたので、他のシステムとの連携も図られるものと思われます。

実際のリリースは 4 月からですので、事前の情報として以上となります

【岡野委員長】

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明について、委員の皆様から、御意見・御質問などはございますか。

【岡野委員長】

能登で救護班として参加した際、J-SPEED を利用するために事前に習得して向かったが、現地に行ってみたら、他のシステムを利用している状況があった。

EMIS に組み込まれているということは、今後は J-SPEED に統一していくことになるのでしょうか。

【小野課長】

J-SPEED については、発災 1 か月くらいはかなり入力されていたが、途中途絶えて、データが欠落している時期があったと記憶しています。

私は金沢で、傷病者数の推移を確認し、その理由が支援チームによるものなのか、地元の診療機能が回復している結果なのかを検証しておりましたが、その根拠には J-SPEED の情報を利用していました。

今回、被災地で利用するシステムについては、D24H も一時期は使用されていたが、一時期は使用できていなかったなど、災害時にはどうしても起こってしまうのだと思いますが、ただ、使用するシステムが変更

になっていくべきではないと思います。

今回の EMIS 改修でも、実際にどのように運用していくかという点については、4月にリリースされてから検証していくようになるかと思っています。

【伊藤委員】

薬剤師会では EMIS は実際に見たことはないのですが、是非参加したいと思っています。

医療機関や行政以外では、アカウントを持つことはできないのでしょうか。

【小野課長】

医師会でもアカウントを持っているので、薬剤師会では持てない、ということはないはずです。

【岡野委員長】

例えば薬剤師会における薬剤状況の共有に EMIS を利用したりはできないでしょうか。

【小野課長】

今私が考えたのは、薬剤師会が病院の状況を把握することで、今後必要になる事前の準備等の動きができるのではないかと思いますので、アカウントの登録については県に確認しておきます。

【伊藤委員】

ちなみに、別のシステムになりますが、薬剤共有システムは現在構築中なので、分けて考えていいと思います。

【松山委員】

歯科医師会としては、避難所等では歯科の業務は重要であると考えておりますが、その歯科関係の情報と EMIS との関係を教えていただきたいと思います。

【小野課長】

EMIS に避難所の情報を入力する場所があるが D24H の方が、入力項目がしっかりしているため、避難所情報については、D24H に入力するようになっていくのではないかと考えられますが、金谷委員いかがでしょうか。

【金谷委員】

ご提供いたしました資料の 5 P の右上に D24H の欄がありますが、ここに、薬剤備蓄状況や避難所情報を入れるようになっております。ここに入力していただくことで、情報を共有することができるようになっておりますので、日ごろからどのように情報を入力する練習をしていただくかが課題になると思います。

情報の入り口をきれいに整理されているわけではないですが、おそらく薬剤師会・歯科医師会様の方には D24H を活用していただくことで EMIS にも反映されていくようになります。

いずれにしても、リリースされて、実際にどのように運用できるかを確認していく必要があると思います。

議題(4)その他

【岡野委員長】

続きまして、議題 4 「その他」でございますが、事務局からの議題はありますでしょうか。

または、委員の皆様から、本会議への御意見・御質問などはございますか。

【岡野委員長】

それでは、金谷委員から追加でいただいた EMIS の資料について、ご説明いただけますでしょうか。

【小野課長】

今回の改修は、金谷委員からいただいた資料にあるとおりの改修をしているようです。元々のコンセプトではありますが DMAT としての活用のほか、行政がその情報を共有することで様々な戦略を立てていくように作られていっているように感じます。

災害時に通信状況が悪くなっている状況でアクセスが集中するため、動かすことができるのか、という疑問が常々あり、順次改修を続けていたが、根本的な改善を図ったものとのことです。

また、被災地で活動している中で、ウェブ会議や動画による情報共有やファイル共有等の必要性が生じたため、現地で Google ドライブ等のツールを導入し、現地でアカウントを作ったりするような状況でしたが、その時に初めて考えて手間をかけるのではなく、あらかじめ必要と思われる機能を積むことで、現地の負担を減らそうという考えだと思われまます。

閉会

【岡野委員長】

ありがとうございました。

何か他に追加、御質問などはありますでしょうか。

特にないようであれば、本日の予定されていた議題は全て終了とさせていただきます。

司会を事務局にお返しいたします。

【土元課長】

岡野委員長、委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたる審議にご協力いただき、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。

お忙しいところ、御参加いただきまして誠にありがとうございました。